


坂下地区

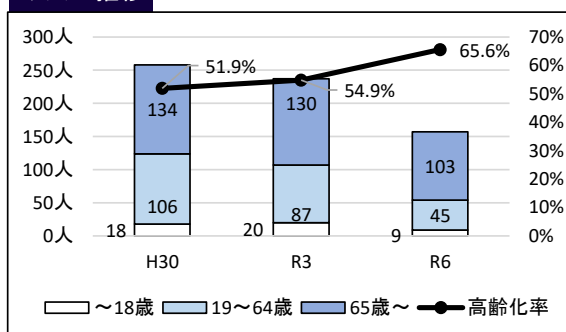
◆概要

	【位置図】	まち協名	坂下地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市関町沓掛234	電話	0595-96-2001
		地区構成	坂下 沓掛 市瀬		
		地域特性	亀山市の西部に位置し、鈴鹿峠の麓の東海道48番目の宿場であった坂下から街道沿いに沓掛及び市瀬の3自治会で構成され、歴史的にも坂下村行政区並びに坂下小学校区であったつながりが強い地域です。鈴鹿馬子倶楽部の指定管理を受け、会館の活動拠点としての機能を高めるとともに、会員及び多様な団体との交流・連携できる機会づくりに取り組んでいます。会館と隣接する鈴鹿自然の家(旧坂下小学校)及び天体観測施設との一体的な利活用には可能性を有しています。		
面積	1,961.7ha				
めざす姿	地域みんなが前へ踏み出すまち～ええやん坂下～				
地域の誇り	生き生きとした生活を楽しみながら、住民が元気に安心して暮らしている				

◆人口

	平成30年	令和3年	令和6年	増減	
総人口	258人	237人	157人	-21人	
人口密度	0.13人/ha	0.12人/ha	0.08人/ha	-0.01人/ha	
65歳以上	人口	134人	130人	103人	-4人
	比率	51.9%	54.9%	65.6%	2.9%
18歳以下	人口	18人	20人	9人	2人
	比率	7.0%	8.4%	5.7%	1.5%
外国籍	人口	4人	6人	2人	
	比率	1.6%	2.5%	1.0%	

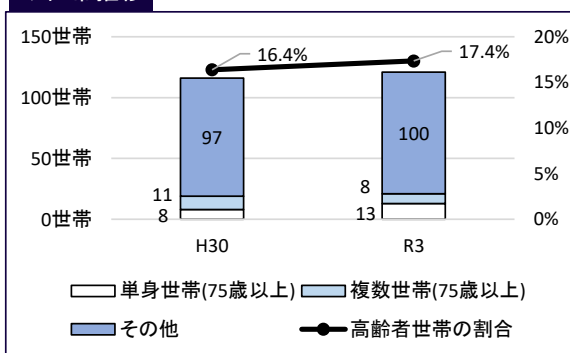
◆人口推移



◆世帯

	平成30年	令和3年	令和6年	増減
総世帯	116世帯	121世帯		5世帯
単身世帯(75歳以上)	8世帯	13世帯		5世帯
複数世帯(75歳以上)	11世帯	8世帯		-3世帯
高齢者世帯割合	16.4%	17.4%		1.0%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	平成30年	令和3年	増減
要支援1.2	9人	11人	2人
要介護1～5	33人	30人	-3人
合計	42人	41人	-1人

◆地域組織

	平成30年	令和3年	増減
自治会	3	3	0
老人クラブ	2	1	-1
子ども会	0	0	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	2
福祉委員	11
介護保険施設・事業所	1
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・診療所	0
歯科	0
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	11

◆サロン活動

	平成30年	令和3年	増減
ふれあいいきいきサロン	3	2	-1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 福祉委員
◆活動内容
【交流活動】 三世代交流事業として、夕涼みややまびこフェスタを行っています。
【訪問活動】 高齢者宅に配食訪問活動を行っています。
【その他】 リーダー会や研修会を開催し福祉意識の向上を図っています。



ええやん坂下
やまびこフェスタ



坂下健康
マイレージ

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・夕涼み会
- ・西部ルート利用ハイキング
- ・ええやん坂下やまびこフェスタ・ふれあい交流会
- ・節分祭
- ・バス旅行
- ・防犯講座
- ・敬老会
- ・配食訪問活動
- ・坂下健康マイレージ
- ・生きがいづくり事業
- ・健康体操

◆社会福祉協議会 生活支援コーディネーターからのコメント

坂下地区の人口は市内で一番少ない258人で、そのうち54.9%にあたる130人が65歳以上です。地域内121世帯のうち、17.4%にあたる21世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の2.5%にあたる6人が外国籍です。

地域の特色として、地区の生活基盤となる公共交通にはコミュニティバス西部ルートがあり、利用者は限られているが、唯一の外出手段となっています。また、買い物は、個人商店などの配達や移動販売が日常の買い物を支えています。人口減少や超高齢化が進む中で、日常の見守りやゴミ出し等は、近隣の者が手助けするなど関係性が強くソフトインフラとして機能しています。このようなソフトインフラを地区全体へ広げるため、多くの住民が出会い・ふれあう行事やイベントを行い、まちづくり協議会への信頼の醸成や地域づくりへの参加・協力意識が育まれつつあります。令和3年度より「ええやん助け合いよろづや縁」を立ち上げ、お互いに助け合い・支え合いながら、いつまでもみんな楽しく安心して生活できるように支援するちょこボラのしくみが始まり、この活動が軌道に乗り、継続し発展していくことが期待されます。